

那賀川水系河川整備計画（那賀川流域住民の意見を聴く会）那賀町第二会場  
議 事 要 旨

日 時 : 平成18年12月9日(土) 13:30~17:45

場 所 : 那賀町開発センター 2F大会議室

参 加 者 : 116名参加

議事要旨: 以下のとおり

【住民Aさん】

昭和22, 23年頃、那賀川の水崎には45cm位の鮎がいたが、ダムができて、このような魚が住めなくなった。

ダムと治山・治水はわかるが、利水が入れば環境との矛盾が生ずる。

様々な生物が生息する環境条件を壊せば、川は良くならない。長安口ダムが死水をつくる。このような状況をいち早く取り除いてほしい。

山と川を切り離して考えてはいけない。私たちが小さい時分の川の水より1/3ぐらいになったのは、森林の保水力が低下したことが大きな原因である。渇水の損害額は、100兆円にも及ぶような自然の恵みの価値と比べれば、どうなのだろうか。

ダム建設により移転を受けた人々が再度移転をせざるを得ない状態になるならば、国で被災をうけた時の抜本的な補償制度を作してほしい。

堆砂排除のために、排砂バイパスを設置してほしい。

【事務局】

私たちが昔いた鮎が戻ってくるような川になるように願っているのは同じである。

長安口ダムの水を利用して下流域は発展してきた。しかし、マイナス面として環境的に変わってしまったところがある。

平谷地区の問題については、県のメニューの中に河川改修が入っており、その中で具体的な話をさせていただく。

堆砂排除について、現時点では長安口ダム貯水池上流の土砂を除去して、長安口ダムの貯水池に入る手前で止めるという方法を考えている。排砂バイパスについては検討が始まったばかりであり、今後とも引き続き研究等を進めていきたい。

【住民Bさん】

木頭地域自主防災会連合会の会長をしており、今後水害についても活動の大きな重点目標として取りくみたい。小見野々ダムの堆砂による水害が緊急的課題であり、早急に堆砂問題による浸水を解決することをめざし活動しようとしている。

木頭地区における過去の水害の被害状況からみると、大きな被害のあった昭和40年9月洪水、平成17年9月洪水が欠落している。また、昭和51年9月洪水、昭和54年9月洪水については素案P9の被害数字が少なく記載されている。我々と同じような被害認識を共有していただきたい。

素案から小見野々ダムの堆砂問題が欠落している。県も国も関係ないのか。四国電力の堆砂を県は公害として認定しているのか。県の整備計画は蔭井橋から出原橋までの間となっているが、下流の海川口までの間の堆砂を解決していただきたい。四国電力に解決の責任があるとしても県は四国電力に強く命令すべきである。現在の状況で洪

水が発生した場合に県は危険であるという認識があるのか。認識をお持ちなら、なぜ整備計画素案に記述できないのか。また平水位とは、ダムに水を貯めた時の水位か、水を貯めないときの水位か。

四国電力が砂利採取を依頼している以外に、砂利組合またはそれ以外のものが砂利採取の申請をした場合、許可を与えるのか。また県から那賀町に砂利採取許可の権限委譲は可能か。

県の河川整備計画(堤防整備、河道整生)は来年、再来年にでもできるのか。即効性があるのは砂利の除去であるので、早急に行っていただきたい。

#### 【事務局】

素案P9の表の数字は水害統計の数字であり県が市町に被害を報告していただいた数字を記入している。本資料においては平成16年まで整理しているが、平成17年の台風14号の被害についても十分認識している。

小見野々ダムの堆砂については、四国電力が助地区を中心に砂利採取をしている。県としては、地元の意見も認識しており、国・四国電力に伝えて今後とも調整していきたい。

小見野々ダムの堆砂を、公害という認定はしていない。

小見野々ダムについては平水位の位置づけはない。小見野々ダムの砂利採取を行う場合には水位を下げて実施している。

砂利採取については組合の申請に基づき、希望する場所によって個別に判断している。申請者については、砂利採取組合で一本化している。砂利採取許可を町へ権限委譲することは、水系一貫管理という観点から難しい。

堆砂によって浸水被害が発生している箇所については、浸水被害の状況等を考えて個別に判断していきたい。

#### 【住民Cさん】

小見野々ダムの堆砂について、県は危険であるとの認識があるのか。危険と認識していれば、堆砂除去の命令・指示はできないのか。

どういう目的で四国電力が堆砂除去をしているのか。洪水対策が目的で行っているのであれば危険という認識があるのではないか。

#### 【事務局】

小見野々ダムは四国電力が管理しており、ある程度以上堆砂が進行した場合には積極的に堆砂除去していただくことで、浸水被害を助長しないように四国電力、国、県の3者協議という形で行っている。(命令、指示という形ではない)

#### 【住民Dさん】

今日来られなかったお年寄りが大勢いる。来られなかった人の意見こそ我々の知らない年代の那賀川の清流についての意見である。第2回、3回の開催予定はあるのか。

事務局の皆さんも流域のすみずみまで歩いてみてはいかがか。

現在は山が荒れていて、山腹崩壊が起こりダムへ堆砂する。国土交通省は、林野庁等山の管理をしている方と一緒に山を見てほしい。

コンクリートのダムが川をせき止めたのが問題の全てである。ダムがなければ昔の清流が復活し、海まで土砂を流すことができる。昔からの天然の恵みを今の時代の人間がこわさないように、自然をもっと大切にしていきたい。

**【事務局】**

意見を頂く場合は、今回1回だけで終わらず、2回目以降を考えている。  
ここに来られない方からの意見は、パンフレットのはがきを投函していただきたい。  
インターネットなどからも意見がいただけるようになっている。  
我々も山を歩いているんなことを考えていきたい。

**【住民Eさん】**

アメリカではダムを造るのをやめる時代から撤去の時代となっている。長い目でみて長安口ダムを撤去すべきである。那賀川のダムを撤去するのも選択肢の一つに加えていただきたい。

県は長安口ダム新設時に住民を移転させ、今になって堆砂問題など処置なしとなり、国へ放り投げた。県はずるい逃げ道をつくった。

本流だけでなく支流に造られた砂防ダムには土砂が堆積し、川底が上がっている。出原では洪水時には護岸の上まで水がきている。出原橋では橋脚に流木がひっかかっている。県が安全だと思っているところが、そういう状態にあることを認識していただきたい。

**【事務局】**

ダムによって流れをせき止め、下流への砂利供給の減少により瀬や淵が無くなるとともに濁りの長期化が発生していることは認識している。

ダムというのは下流部の治水・利水に非常に役立っている一方で、上流部ではマイナス面が多いことに関する心情についても理解している。那賀川流域フォーラム2030の中で既設ダムの有効活用という提言をいただき、県としてもできるだけ自然に負荷をかけないように対応したいということで、国に直轄管理をお願いした経緯がある。

**【住民Fさん】**

長安口ダムの管理が県から国へ移管されることに対し、より適切に管理されることを期待している。

ダムの寿命が50年と聞いた。コンクリートなどの劣化で危険度が増すということだと認識していたが、今もなお健全な構造物であるため、有効活用が本来の考え方だと思う。

最近では若干、ダム下流へ砂利投入を実施しているが、川口ダム下流を主体にしているように見受けられる。経済性などいろんな面を考えていただき、ぜひ長安口ダム直下に砂利投入していただきたい。現在投入している砂利は分別後の細かい粒子のものばかりと思われるが、採取したものをダイレクトに投入して頂くのが自然である。

**【事務局】**

ダム直下への砂利投入であるが、平成16年災害では200万 $\text{m}^3$ あまりの土砂が長安口ダムに流れ込み、除去として年間2万 $\text{m}^3$ を2年実施しており5カ所に分散して投入している。長安口ダムの直下についても今後検討していきたい。

**【住民Gさん】**

長安口ダムを国直轄移管とあるが、なぜダム管理を一本化しなかったのか。目算であるが、小見野々ダムの土砂は1年間で300m下流へ進んでおり、10年後には貯水量が0となると考えられる。小見野々のダムが満杯になると長安口ダムへ土砂が流入、さらに30年先には長安口ダムが埋まり、川口ダムへ土砂が流入すると考えられるため、一

本化した組織が必要である。

長安口ダムへの土砂堆積で貯水容量の20%が貯まっているというのは本当か。私の見積りでは40%近く土砂が堆積していると思う。

堆砂の除去であるが、1日にダンプでの運搬量はどれくらいを考えているのか。

**【事務局】**

20%の堆砂量については、利用可能な有効貯水容量の20%である。堆砂の形状により大きく感じる可能性もある。

ダム管理の話について、ダムにはそれぞれ目的がありその目的に応じて建設され、四国電力、県、企業局などそれぞれ所有者が異なる。理想的には一本化が望ましいが、現実的に困難であり、現時点では各所有者が管理している状況である

小見野々ダムの堆砂問題は、上流の方々にとって一番深刻な話であり、例年四国電力が年間6～7万 $m^3$ の砂利採取を実施しており、今年度も同程度を予定している。

出原地区についても河川整備計画で目標流量を安全に流せるように計画している。

ダンプ運搬については、4、5台が連続で走るとか、交通整理人をつけるといった配慮で対応していきたい。

**【住民Hさん】**

四国電力と県と国との対応の境が分からない。出原橋で4m以上河床が上がっているのので、早く土砂を除去して河床を下げていただきたい。

小見野々ダムは欠陥ダムである。上流で降った降雨を放流しきれないのではないかと。

南川の上流、本川の上流の土砂を見てほしい。かなりの量の土砂が堆積している。県・国がいつから工事にかかるのか教えてほしい。

出原地区で四国電力も呼んで説明会を開催してほしい。

那賀町長は、那賀町に砂利採取許可を任せてほしいと言っているが、出来ないのか。

**【事務局】**

小見野々ダムの貯水池末端である出原地区で川底が上がると水位が上がり浸水被害が助長されるので、川底を掘ってほしいとのご意見だが、河床の経年変化をみると毎年河床が上がったり下がったりという状況であり、積極的に掘って川底を維持するのは難しいことなどから、堤防により浸水を防ぐのが有効と考えている。上流の土砂については、今後とも治山・砂防のほうと連携しながら土砂の流出抑制などに取り組んでいきたい。

河川整備計画は30年間で整備すべき事業内容を位置づけるものである。過去の浸水被害の状況や費用対効果などを総合的に判断しながら早く着手できるよう事業化にむけて努力したい。そのためにも早期に河川整備計画を策定したい。

河川整備計画を策定するときには地元の市町長の意見を聞くことになっており、19日に市町長の意見を聴く会があるので、十分意見を反映できるようにしていきたい。

**【住民Iさん】**

小見野々ダムについてお聞きしたい。確かに河川整備計画は実施時期を決めるものではないが、河川整備計画が策定でき次第、災害をうけて危険のあるところでは、2～3年のうちに早く実行に移してほしい。

海川谷川はダムの中にダムができていない状態で放置されている。四国電力は営利目的の企業なので、ダムを許可したものが、集中的に計画を前倒しして整備をするように指導をするべきである。

歩危峡狭窄部では、国道195号で浸水して通れないところがある。堆砂対策と国道の管理を30年の河川整備計画の最初に入れてほしい。

出原地区で河床整正とあるが、極端に湾曲している箇所についてはカットや遊水地帯を造ることも計画に入れてほしい。少なくとも和無田～出原間の左岸の湾曲部の危険箇所に加え、大きな危険箇所として西宇間まで入れてほしい。

砂利採取許可権を那賀町に移管してほしい。湧水時に適宜許可して採取ができるし、地元の要求も入れやすい。現在は建設業者の資材になる分しか砂利をとっていないと思う。堆砂を危険物とみなして除去する考えを持っていただきたい。

#### 【事務局】

小見野々ダムに関しては、河床が上がり住民の皆さんが不安であることや那賀町第一会場での意見を四国電力に伝えたところ、現時点で四国電力だけでの対応は、困難とのことであった。今後、県と国交省も交えた協議の中で、四国電力に対しても強く申し入れていきたい。

河川整備計画で位置付けた事業については、今実施中の事業の整備状況、過去の浸水状況、予算の確保状況や費用対効果などを検討し、急ぐところから事業着手出来るよう努力したい。

海川谷川の崩壊土砂については、上流で人家浸水等の影響がないことを県が確認している。国道195号の出水時の浸水は認識している。財政も厳しい中でいつ着手できるかは明らかにできない。

堤防整備による洪水防御を基本にしているが、特に流れの悪いところは部分的に掘削していきたい。

砂利採取の許可権については、水系一貫管理の観点から、一部分のみ那賀町へ移管するということはふさわしくないと考えている。

既存施設がある箇所については再度災害の防止等に配慮しながら、災害復旧などで対応していきたい。

#### 【住民Jさん】

排砂バイパスはまどろっこしい。長安口ダム直下に工事用仮排水路トンネルを利用した排砂トンネルを造ってはどうか。三門峡ダムでは排砂トンネルを30数年前に完成させている。

基本理念のキャッチコピーは、「那賀川の魚たち」、あるいは、「よみがえる那賀川」などにしてはどうか。

水源の森林の手当てをせずに、堆砂の問題を論じても意味がない。杉林を間伐して広葉樹等を生やすことにより、土地を締める必要がある。

#### 【事務局】

安全安心は、最近数年の国土交通省のキャッチフレーズである。川に対する想いは住民の皆さんと同じであると考えている。川の中を見た河川整備という気持ちで取り組みたい。

工事用仮排水路トンネルを利用した排砂トンネルについては、長安口ダムの高低差が80m程度あり、水圧等の影響により工事が非常に難しい。

長安口ダムは、流域唯一の多目的ダムであるため、治水利水機能を維持しながら施工する必要があるため、水を貯めたまま工事をしなければならない。

新しい排砂バイパスや排砂トンネルなどいろんな研究をやっていきながら進めていきたい。

【住民Kさん】

ダムで土砂をせき止めているのが諸悪の根元である。岩盤が露出したり、局所洗掘により竹藪が流出しかけている。排砂バイパスを造り、早く下流へ土砂を流していただきたい。

人間が造るものなので完全なものではないかもしれないが、失敗を踏み台にして前進すればよい。坂州木頭川の十二社から土砂を2万m<sup>3</sup>運搬しているが、漁業組合から苦情がでるのであまりたくさん運ぶなよと聞く。

スリット方式の排砂バイパスを造ればよい。5 km、6 kmの排砂バイパストンネルなら簡単に造れる。

【事務局】

排砂バイパスについては、まだまだ技術的に未熟なところもあり限界もある。科学の進歩や技術の進歩にあわせて考えていきたい。

【住民Lさん】

キャッチフレーズを、「那賀川水系にしか住めない人が安全安心できる川づくり」ということにしていきたい。

桑野川は、洪水時には本当に安全なのか。思わぬ雨量が発生した場合どこで調整するのか。一の堰だと思うが、どうなのか。

大津田川の計画に用いた洪水は、平成11年6月であるが、昭和25年のジェーン台風規模の洪水がきたらどうなるのか。

災害で死亡事故がでた場合は、県、国が対応してくれるということで認識した。排水問題が解決しない限り、不安で安心して暮らせないので、行政の方々から、管理者である阿南市に意見書を提出してほしい。

【事務局】

桑野川については、引堤、築堤、河床掘削により河川整備計画の目標流量である950m<sup>3</sup>/sの流下は可能であると考えている。一の堰で洪水調節はできない。

大津田川については、県道の橋梁部のボトルネック区間を一部解消することで浸水被害が軽減されると考えている。また、現在ポンプの整備も進んでおり、効果の発揮が期待される。

ジェーン台風の時には桑野川では大きな被害は出ていない。桑野川は台風よりも前線による洪水が多い。

阿南市の管理している水路については、地域のかたからも阿南市に対して声をかけていただきたい。我々も阿南市と連携して河川改修を進めていきたい。

【住民Mさん】

P136に「長安口ダムの改造に伴う河道内掘削」と記述しているがどのような意味か。

またどれだけの量の運搬を行うのか。P96に「主としてダム貯水池上流において土砂の除去を行う」と記述しているが、どれだけの量を年間除去するのか。また「なお堆砂対策については、今後も効果的効率的な対策を検討する」と記述しているが、浚渫は入っているのか。

ダムの堆砂の問題は治水・利水、ダム上流部の浸水問題など諸悪の根元となっているので、土砂の流入防止対策も入れていただきたい。

【事務局】

河道内掘削というのは、長安口ダム貯水池の上流に溜まっている河道内の土砂を取り

除くことを考えている。長安口ダム貯水池の中の浚渫は長安口ダム改造事業ではメニューに入れていない。また捕捉しきれない今後の流入土砂量を考慮して、貯水池内に240万 $m^3$ 程度の堆砂容量を確保している。

「改造に伴う」という言葉は、我々が改造事業という言葉の中にダム上流での土砂撤去を含んで考えたことから記述したものである。語弊がないように文面を考えたい。土砂運搬については、平均的に入ってくる土砂量程度は掘削が必要であるが、具体的な内容は決めていないので下流のことを考えながら検討したい。

#### 【住民Nさん】

問題は一度に200、300万 $m^3$ の土砂が長安口ダム湖内に堆積することである。これらを解決する方法は排砂バイパスしかなく、計画書を書き直すなど、住民の声を反映していただきたい。

#### 【事務局】

平成16年の200万 $m^3$ の土砂流入も認識しているが、いかに長安口ダム貯水池への流入を抑制するかという目的で土砂掘削を計画し、河川外への持ち出しを考えている。今後効果的効率的な検討・研究を実施していきたい。

#### 【住民Oさん】

平均して年間30万 $m^3$ の土砂流入に対し、年間6万 $m^3$ の堆砂除去(実績)との整合性はどうか考えているのか。昨年まで1480万 $m^3$ で年に30万 $m^3$ 入って来たことになる。平成16年台風10号の時に200万 $m^3$ 入ったことで計算すると2580万 $m^3$ となり計画堆砂量の約5倍になるがこれをどう考えているのか。また昭和51年台風17号の時の流入土砂量は326万 $m^3$ にも及び上流でほとんどの土砂を排除するという計画は不可能に近いのではないか。

出原地点で2,100 $m^3/s$ の河道整備計画の目標流量であるが、出原地区の計画堤防では流下できないのではないか。

#### 【事務局】

なるべくこれ以上、土砂を長安口ダム貯水池内へ入れたくないと考えている。平成16年規模の土砂流入が発生した場合は、上流部で溜まることも考えられるかもしれないが、力の限り取っていききたい。排砂バイパスもいろいろなことを検討しなければ着手できないので、その検討期間中にも堆砂は進行する。検討・研究も進めながら、目の前の問題である洪水調節、土砂排除、濁水対策を少しでも進めていきたいと考えている。

昭和51年のような大崩壊が起きれば大量の土砂が流入してくる。当面の対策として一気に出てこないように治山砂防で対策をとってもらっているが、崩壊箇所も特定できないため、具体的なことはお答えしにくい。河床が上昇して危険な状況と認められる場合には掘削等の対応を実施していく必要がある。

#### 【住民Pさん】

長安口ダムの上流部の河床上昇部の土砂は、どういう手段でどこへ持っていくのか。周辺部でダンプ公害が起こらないようにといていたが、もう少し明確にお答えいただきたい。

底水利用について、長安口ダム満水の状態で表面から40m下がったところでは酸欠状態と言われているが、どのように対処するつもりか。

平成16年の災害対応で、荒谷の最上流部(大戸残土処理場)へ土砂を運搬しているが、貯水池面より高いところであり、地球科学、地球物理学上おかしい。ダム問題にしる、堆砂問題にしる、上流と下流では意見が違う。下流の人は水の濁りを一番きらい浚渫はお断りだといい、また上流の人は選択取水その他でキレイな水を取っても仕方がないというのが本音である。そういう中で、掘削した土砂は紀伊水道まで持っていき沿岸漁業の振興のために活用するのが国の当然の仕事であり、市町が構えてくれる場所へ持っていくというのは安易な考え方ではないか。

**【事務局】**

低標高部における酸欠の認識はあるが、長安口ダム貯水池内の土砂を浚渫する計画はなく、上流部での陸上掘削を考えている。

掘削した土砂は、川の下流数カ所へ置いて還元することを考えている。それ以上の土砂は受け入れ地を探して持って行かざるを得ないが、溜まっている量も多いし、早急に処理する必要もあるので、流域内での受け入れ先を検討せざるを得ない。今後もいろいろな方策を検討していきたいと考えているのでご理解願いたい。

**【住民Qさん】**

木頭村の漁協では、非常にたくさんのアメゴの稚魚を育てて毎年義務放流として約30万匹放流している。また、多い時期には約60万匹放流して、好評を得た。

**【住民Rさん】**

出原2,100m<sup>3</sup>/sの関係で砂防ダムや治山で対応したいと言われた。木頭には138の砂防施設があるが、久井谷も南川も全て満杯であるため、そこでカバーすることは、今は不可能であると思う。

**【事務局】**

砂防ダムには目的が二つあり、土砂を溜める扨止(かんし)と土砂が一気に出ない抑止効果がある。

**【住民Sさん】**

吉野川の河川整備計画では第1回意見を聴く会に6時間を要した。那賀川流域住民の意見を聴く会が4時間では短い。まだ他に意見を表明したい人がたくさんいる。

出原の河川整備計画の目標流量2,100m<sup>3</sup>/sは、平成17年台風14号時の水位を勘案したと聞いているが、私の計算では時間雨量50mm程度に対応したものである。現実には70mm程度の時間雨量への対応が必要である。計算し直して頂きたい。

平成16年台風23号や平成17年台風14号において、長安口ダムの最高水位が満水位の225mに達した場合、下の内地区や広野発電所の上流周辺付近では230mに上がることになる。これは、長安口ダムの堆砂が原因である。大洪水の時は一度に100万、200万m<sup>3</sup>の土砂流入もあり、それらを含めた河川整備計画をきちんとやって頂きたい。

**【事務局】**

出原地区の整備について、正確な数字ではないが計画では3時間雨量で160mm、ピークで70mmである。下の内地区については宮ヶ谷川の河川改修を考えており、長安口ダムの背水にも対応できると考えている。また時間雨量が同じ70mmでも、流出量は雨の降るパターンで変わってくる。